



外国出張報告書

平成 26 年 11 月 25 日

1. 出張国名 ラオス
2. 出張月 平成 26 年 9 月～11 月
3. 出張目的 インドシナ半島地域における家畜飼料基盤の確立：C

4. 成果の概要

ラオス畜産研究センターにおける放牧試験では、草量の低下により体重の減少がみられ、採食パターンに変化が生じた。また、Br203 と Ruzigrass の系統試験では、生育が進むにつれ、Ruzigrass が草高、収量とも高くなった。ビール粕を用いた牛の給与試験を計画しその準備を開始した。ナムアン村の焼畑圃場及び耕耘機造成圃場に

Bracaria Decomebence 及び *B. Humidicola* を播種したところ、*B. Decomebence* が草高、収量も優れていた。ナムアン村の牛飼養に関する労働力について、農家へ聞き取り調査を行ったところ、労働は極めて少ないとの回答が得られたが、実際の労働時間と乖離があることが認められた。他地域の牛飼養農家の実態調査を行ったところ、出荷前 3～6 か月間に、舎飼いで、青刈り牧草、圃場副産物、トウモロコシ、カボチャ等を給与しており、ナムアン村で活用可能な情報が得られた。

ラオス大学においては、キャッサバ澱粉粕の飼料化に関する試験を計画した。